

作業の効率化と高位安定生産を高い栽培技術により実現

いちかわ しげひろ
～市川 茂弘 氏（愛知県西尾市）～

経営体の概要

平成20年	➔	現在：令和元年
基幹作物：水稲、小麦、大豆		基幹作物：水稲（主食用米、飼料用米）、小麦、大豆
経営面積：48ha		経営面積：58ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

市川氏は、水田作農家の後継者として平成9年に就農し、平成19年に経営代表となっている。市川氏のほ場がある西尾市は、担い手農家への農地集約が進んでおり、多くの水田でブロックローテーションが行われているが、平成6年から始まった国営かんがい排水事業で老朽化、機能低下した既存基幹水利施設の改修・更新が行われたことにより、農業用水の安定供給が確保されたことで、本経営体の生産性の向上と農業経営の安定化が実現している。

また、地域の生産者の高齢化に伴う作業受託面積の拡大に対し、ドローンによる防除を導入するなど農業機械を効率的に運用し、作業の効率化を図るなど、農地の維持・保全とともに地域の農業の維持・発展にも貢献している。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

稲・麦・大豆の2年3作体系のブロックローテーションを行い、2年毎の水稲作の前に、家畜ふん堆肥または土壌改良材による土づくりを行っている。

②省力化・低コスト化

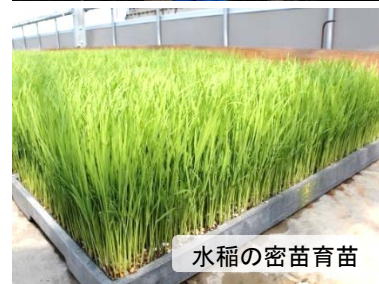
市街化地域のため、平成30年から防除に騒音やドリフトの影響が少ないドローンを導入し、近隣への配慮を行っている。ドローンにより防除が約8～10ha/日可能となり、愛知県の経営指標と比べて約50%～70%ほど省力化が図られている。また、農作物に近距離で農薬散布が可能であるため、散布ムラが軽減し、農薬のコストが削減できている。このほか、水稲は密苗栽培に取り組み、苗箱の削減を行い省力化を図っている。

③地域へ及ぼす影響

平成30年にJA西三河農作業受託部会会長に就任し、部会を牽引している。特に小麦の防除は、生育状況に応じて部会員に徹底することで、高い反収に結びついている。



市川代表



水稲の密苗育苗



麦の収穫作業

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市町：岡崎市、碧南市、豊田市、安城市、西尾市、幸田町
 受益面積：7,073ha
 事業期間：平成6年～平成23年（平成24年～26年）
 事業目的：用水改良
 主要工事：ダム1箇所、頭首工2箇所、用水路L=57.4km、水管理施設

位置図（愛知県）



新矢作川用水地区

<問い合わせ先>

東海農政局
 農村振興部農地整備課
 課長補佐（競争力強化事業推進）
 電話：052-223-4638

（令和元年度調査時点）